

親子体験教室 みくに幼稚園（千葉県柏市）

完全週5日制の中で家庭や地域社会とともに、豊富な自然体験、生活体験などを経験する中で「生きる力」を育んでいく。そして、家族全員がふれあう中で、正面から向き合い、子どもたちと共に成長を図っていく。また、地域の一員である自覚をもっていく。その中で、「科学する心」を家族共通のものとして取り込めるよう図り、親が子どもと一緒に活動したり、感動する中で、親子がともに科学する心を持つことが大切である。

親子体験会とは

土曜・日曜・祝祭日等、幼稚園の休みの日に保護者と一緒に園児が活動する。基本的に希望者の参加で、費用は無料から3000円程度まで。保護者の負担は少なく、時間も2時間程度を基本とする。

参加型のイベントで講師、指導者も教師、保護者、地域の人材を中心に考える。保護者の積極的な参加を促す。月に1度から2度の開催で年間20回程度行う。本年度で3年目の活動となる。

1 親子体験を一つのよりどころとして

幼稚園と保護者の間に一刻も早く信頼関係を築き、園での各種の活動に興味関心を持ってもらい、理解をしてもらう。（仮説 1）



どんだん
園に足を
運んでもらう

4月のミニ動物園にて

教えるのではなく、ともに学び発見する喜びを知る。

親子関係を見つめなおす機会となって

入園式の光景です。両親揃っての入園式がほとんどとなってきましたが、お父さんはビデオとカメラを持ってわが子の晴れ姿を撮るのに精一杯です。できれば、自分の目で成長した我が子の姿を見てもらいたいのですが、まだまだ、自分の子を追うことだけで他のことには無関心です。家庭が中心で、他の人のことを考える余裕はありません。

そこで...

何に興味があるのか、どんなことをしているのか、友達とのふれあいは、幼稚園はどんなところなのか、積極的に知ってもらいます。幼稚園での園児の活動に興味を持ってもらい、幼稚園児の活動を知ってもらう中で、「これはおもしろいぞ」「ちょっと、のぞいて参加してみるか」という気持ちを保護者の方に知ってもらいます。そのためにも、土日祝祭日等に親子で行える活動を提案していきます。



プロの指導を受けながら「親子サッカー」



ダンボールで椅子作り

子どもと真っ直ぐに向き合って

4月ミニ動物園を開催します。入園式には出たけれど、まだまだ幼稚園をよく知らないといった保護者にもより多くのことを知ってもらいたいということで、幼稚園の園庭でミニ動物園を開催します。教員や他の保護者とも触れ合えますし、何よりも自分の子が他の子どもたちと一緒に遊ぶ姿を見てもらいます。この日はビデオカメラよりも親の手や足のほうが大活躍します。同時にTシャツづくりをしながらお母さん方も知り合いのお母さんをふやしていきます。その中で、安心安全な環境である幼稚園を理解してもらい、さらに、これからの幼稚園生活に期待を持ってもらいます。同様の活動として科学マジックや芝生や環境整備を行うことができました。

科学する心の前段階としてのベースを築き上げていきます。見ていると、時として親の思いが強すぎて、子どものペースや考えと親の行動がかけ離れてしまっていることも多々この時期には見受けられます。じっくりと子どものペースで行うことの大切さを他の子どもたちを見ることによって知ってもらいます。



Tシャツづくりの手伝いで、お話も進みます。

2 幼稚園での生活にどのように活かすか

1の後に、積極的に園での活動に参加してもらうとともに、ボランティアとして参加をしてもらったり、専門知識を活用してもらう。（仮説 2）

園児の見本となって

子どもたちにとっては目標となる身近な大人は保護者が大部分です。しかし、他の大人が存在を知ることには大いに意味あることとなります。世の中にはいろいろな人がいて、それぞれの考えや特技、行動パターンがあることを知っていきます。

さまざまな専門分野を持った保護者や地域の方にその力を発揮してもらいます。

歯医者さんには石膏で化石のレプリカを作ること、おじいちゃんに餅のふかし方やつき方を教わったり、そのほかにも流氷について（気象庁にお勤めのお父さん）、歯について（歯科衛生士のお母さん）教えてくださったり、楽器や歌を披露してくださ



った方々がいらっしゃいました。また、それを他の保護者の方々が一緒に参加する中で、共通の知識、意識付けをおこなうことができました。教師もその中でさまざまな知識を得ることができ、大きな財産としてこれを役立てることが出来ます。



活動を共有することによって

親子体験で皆が同じ経験をする中で、親子の会話も増え、互いを認め合う姿も見られる。

実例 1

年中のAちゃんは教育熱心な両親の元で育てられています。熱心さが高じて子どもに多くのことを期待しすぎる場合があります。幼児には難しすぎる内容のものを与えたり、理論や知識ばかりが先行し、実際の子どもの姿がわからない様子です。「昨日は水族館に行って、魚の生態についておそわったよ」「カールマン渦巻きって見てきたよ」……お父さんも自分の持っている知識を一刻も早くわが子に教えたくてたまらないようです。幼稚園の親子体験でもはじめはお父さんが一人で工作をしたり、物足りない様子も見えました。しかし、会を追うごとに、だんだん周りの親子の様子を見たりする中で、わが子の姿を客観的に見るようになってきたのでしょうか。子どものペースに合わせて、会話をしながら活動を進めることが多くなってきました。笑顔と笑いの中に確かな手ごたえを感じるようになってきました。



3 皆とともに生きる喜びを知る

参加することにより、幼児の活動を理解してもらい、共感する中で、親同士の交流も図り、地域の一員としての自覚とともに、子育て支援の一助にもしてもらおう。(仮説 3)

地域の一員として輪になって

会社や仕事関係の知り合い以外の人との交流が、人間性を捉えた他者との交流になり得ると考えます。地域に知り合いのいない保護者も子どもや幼稚園を介在として一人の個人としての存在が認められます。はじめは緊張して、弱みを見せまいとして片意地を張っているようなお父さんもしだいに打ち解けてきます。そして、自らを表現し、他の保護者とのつながりを楽しむようになるのです。保護者のその表情が豊かになったとき、それはとりもおさず地域の掛け替えのない人材になったときです。



自転車の安全な乗り方
簡単な修理

特技を活かして

園児たちの生活においても様々な変化が現れてきました。幼稚園での園児の活動に保護者が興味を持ったことで、家庭での生活との関連性がでてきたのです。230名の幼稚園でホームページの毎日のアクセス数は平均250回を超えるようになり、自薦他薦での教育補助の申し出も多くなりました。何よりも幼稚園の枠を超えての人のつながりができてきたのです。



4 よりよき成長を願って

その様な活動の中で知的好奇心を育み、科学する心を家庭の中で培い、ともに学び遊ぶことの基礎を作り上げる。それを受けて、幼稚園での教育、友達との生活にも活かして行く。(仮説 4)

科学する心、それは幼稚園、家庭、地域においていかに子どもたちが多くの人と関われるか、ネットワークが出来るか。そして何よりも一番身近にいる保護者たちがいかに子どもたちとの関係を作ることが出来、不思議だなという心を大切に出来るかということです。直接的に自然科学に関係あることだけでなく、幼児の生活全体において、そのことが大切になってくると考えます。

親子で製作したことも、演奏や絵本を見て覚えた感動も、血となり肉となり子どもたちの成長となります。それが、家庭から幼稚園へそして地域へと広がっていくのです。「面白そう」「やってみたい」「もう1回やってみる」「今度は・・・してみよう」



遊びの中で、様々な思いがあふれ出てきます。今年卒業したBちゃんは、入園当初引っ込み思案で、いつも人の後について、隠れているような子どもでした。親子体験でさまざまな経験をする中で本来持っていた力が表出してきたのでしょうか。親子でする中で心の安定もあって、自分から進んで行動したり、表現することが目立ってきました。このように一人一人の心の中に確実に何かが育ってきています。

みどころ

誰もが参加しやすく、子どもたちの経験や成長を感じられる親子活動から始めることで、いち早く信頼関係をもてるように工夫し、「親が子どもと一緒に活動し、感動する中で、親子がともに科学する心を持つことが大切である」という保育者の思いを、保護者も共有できるようにしています。次第に保護者も力を発揮することで子どもたちの成長に結びつく充実感のある活動に展開し、地域社会の一員として取り組んだり特技を生かしたりする積極的な取り組みが引き出されています。親子、親同士、地域の中で「皆とともに生きる喜びを知る」という豊かな経験を保護者がし、その中で一緒に活動し喜びを共有する子どもたちと共に育つことを実感しています。また、こうした取り組みで、保育者自身も多くを学び、共に育つ喜びを味わえます。